

第2回技術者連携交流分科会が 開催されました

—技術者連携交流分科会—

令和2年1月14日（火）協会会議室において、吉岡大藏委員長（国土交通省大臣官房技術調査課技術企画官）はじめ委員7名の出席のもと、技術者連携交流分科会が開催されました。

分科会では、下記の議題について討議を行いました。

- 議題1. 連携交流に関するヒヤリング結果の報告について
- 議題2. 建設技術関係者が抱える課題及び連携交流を進める上での課題について
- 議題3. 連携交流に向けた今後の取組みについて

—主な意見

- ・連携交流のメリットとしては、他機関の取組み内容を知ることができ、自分の取組みを見直す良い機会となる。課題としては、そのような情報が伝わってこない、伝えているつもりが十分伝わっていないと感じている。
- ・女性だけの公務員と民間の集まりの場において、将来結婚した時にどうやって仕事を続けていけばいいのかなど、いろいろな話ができたとよかったとの意見があった。
- ・若い人には、新しいことを自分で考えて、自分で切り開いた経験がやりがいにつながるが、そういうことに時間をかけさせてあげられないというのが現状である。
- ・入札契約など個別の政策分野ごとには交流や調整を行うスキームはあるが、若手技術者や女性技術者など技術者という単位で見ても、ベースを底上げするような連携交流のスキームがあれば良いと思う。
- ・気軽にアプローチできて、同じような悩みを抱えている人同士が理解し合えるようなものも、

一つの連携交流のあり方ではないか。

- ・どういう分野で交流したいかということもボトムアップによって、メニューを作っていく仕組みがあると良いと思う。

第660回建設技術講習会を徳島市で開催

第660回建設技術講習会が、徳島市で令和2年1月22日（水）～24日（金）の3日間、「これからの公共事業と建設技術者のあり方」をテーマに、全国から347名の参加を得て開催されました。

講習会初日は、下記の2講演と大石久和会長をコーディネーターに若手職員3名、先輩職員3名によるパネルディスカッション「新しい時代における



講演の様子
大石久和会長



現場研修の様子
「四国横断自動車道建設事業（新直轄）」

公務員技術者の使命」が行われました。この詳しい内容については、月刊「建設」に掲載する予定です。

○インフラが再建する経済・財政

○記者を動かす広報資料とは

講習会2日目は、下記の4講演と講習会3日目の現場研修で視察する地域事業の事前紹介が行われました。

○社会経済システムのイノベーションを創出する道路

○社会資本整備を巡る状況と未来を拓くリーディング・プロジェクト

○これからの社会資本マネジメントに関する取り

組みについて

○頻発化・激甚化する水災害への備え

○地域事業の紹介 3事例

講習会3日目の現場研修は、226名が参加して「四国横断自動車道建設事業（新直轄）」、「津田インター線整備事業・津田地域活性化整備事業」、「長安口ダム改造事業」について現地で説明を受けました。

また、1日目の講習終了後、「参加者同士の交流会・講師との意見交換会」を85名の参加をいただいて開催しました。地元の料理とお酒をいただきながら、参加者同士の活発な意見交換が行われ、盛況のうちに終了となりました。

Dr.クマの“健康のヒント”

心臓突然死のこと



若く健康そうであった人の突然の訃報に驚くことがある。事故やもともと持っていた病気によるもので、まず考えられるのが心臓突然死である。心臓の血管の病気、心筋の病気から不整脈によるものまで幾つかの原因があるが、不整脈によるものは後から見ても診断がつかないという点で問題だ。亡くなった後に解剖して心臓を詳しく見ても不整脈の証拠はみつからない。それまでに記録されていた心電図や血縁者の病気を参考にある程度想像がついたとしても、確定はできない。まれに致死的な不整脈を起こす病気として、ブルガダ症候群、先天性QT延長症候群という病気があり、症状や心電図で診断される例が増えてきている。昔からポックリ病と呼ばれた

もの、水泳時に突然死亡してしまった例などはこのような病気によるものと考えられている。疑わしい心電図波形を示す若年者は意外に多いが、そのうちのごくわずかな部分に致死的不整脈がおきるとされている。まだ遺伝子のみで診断可能なほどではないが、最近の診断精度は高まっている。もし、健診でブルガダ型やQT延長などの心電図異常を指摘された場合、必ずしも病気であるわけではないものの、念のために専門病院を受診し、リスクがあると判定されれば治療を行うことがいいたろう（今回から担当変更とのこと、長年担当頂いたKさんありがとうございました）。

（北里大学 医学部 教授 熊谷 雄治）